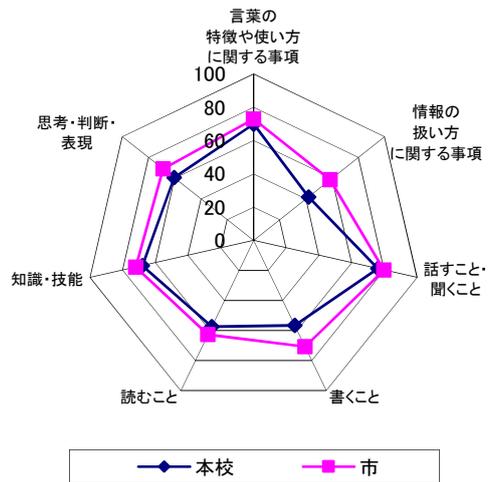


宇都宮市立宝木小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.0	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	42.0	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	76.0	79.8	75.9
	書くこと	56.6	70.7	71.7
	読むこと	57.4	62.8	62.5
観点別	知識・技能	68.0	72.0	74.4
	思考・判断・表現	60.6	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>本校の正答率は市の平均より低い。</p> <p>○漢字を読む問題の正答率が市の平均を上回った。漢字スキル、小テスト、50問テストへの取組を積み重ねた成果が表れている。</p> <p>●尊敬語についての問題の正答率は、市の平均を10ポイント下回った。目上の人との会話の中で、敬語を使うことに課題がみられる。</p>	<p>○小テストや50問テストに向けて学級全体で意識を高めて指導することが、漢字学習に意欲をもち、その後の定着を図っていくうえで効果的であったため、今後も学級単位で継続して指導していく。</p> <p>●敬語については、授業における学習のみで身に付くわけではなく、日常生活において使うことで身に付くものなので、生活の中で適宜指導していく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>本校の正答率は市の平均より低い。</p> <p>●資料から得られる情報をもとに、目的に応じた文章を簡単にまとめて書く問題では、正答率が市の平均より低いだけでなく、無回答率が市の平均を15.9ポイント上回っている。資料を正しく読み取る、資料で読み取ったことをもとにして自分の言葉で文章を書くことに課題がみられる。</p>	<p>●資料を正しく読み取ることができていない児童には、資料を読み取る観点や要点を提示して、読み取りができるようにしていく。</p> <p>●資料の内容をもとにして文章を書けない児童には、文章の書き方の例を示し、観点ごとに簡単な文を書くことから取り組めるよう指導していく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>本校の正答率は市の平均より低い。</p> <p>○話の内容を明確にするための話し手の工夫を捉える問題の正答率は、市の平均と同じで、全国の正答率を8.9ポイント上回っている。</p> <p>●計画的に話し合い、考えをまとめるための司会者の工夫を捉える問題の正答率は、市より10.7ポイント下回った。話し合いを円滑に進めるための言葉や対応を考えることが苦手な児童が多い。</p>	<p>●話し合いを円滑に進める以前に、話し合いの経験が少ない児童が多い。国語の話し合いをする单元だけでなく、学級活動などで話し合いを取り入れ、実践する経験を重ねていく中で、円滑に話し合いを進めるための言葉や態度について学習していく。</p>
書くこと	<p>本校の正答率は市の平均より低い。</p> <p>●賛成しない意見への反論を書く問題の正答率は市の平均を17.8ポイント下回っており、自分の意見とその理由を書く問題の無回答率は市の平均を13.0ポイント上回っている。長文を書くことに対して抵抗感や苦手意識を抱いている児童が多いことが推察される。</p>	<p>●長文を書くことに対する抵抗感や苦手意識は、読書感想文や意見文などの長文を書いた経験が少ないことによるものである。長文を抵抗感なく書いていくために、国語だけではなく、各教科において文章を考えて書く活動を取り入れていく。自分の言葉で文章を書く経験を積み重ねることで、長文を書くことへの抵抗感をなくしていきたい。</p>
読むこと	<p>本校の正答率は市の平均より低い。</p> <p>●物語文の全体像を捉えたり登場人物の描写や心情を捉えたりする問題や、表現の効果を考える問題の正答率は市の平均を5.6～9.2ポイント下回っている。文章の構成や場面を把握しながら正しく物語の内容を読み取ることや、文章中の表現の効果について考えることに課題がみられる。</p>	<p>●文章中の表現の効果について、取り上げて説明することが少なかったことが今回の結果につながったと考えられる。比喩表現や倒置法などの代表的な表現だけでなく、言葉の言い回しや情景描写などにも目を向けて、作者の意図などを考えていくことができるような授業を展開していきたい。</p>

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの